OIPE 17 2005 W

IPW	•

24867/						
TRANSMITTAL FORM			Application No.	10/666,482		
			Filing Date	September 18, 2003		
(to be used for all correspondence after initial filing)		First Named Inventor	Koji Yamada			
		Art Unit				
			Examiner Name			
Total Number of	Pages in This Submission	on 10	Attorney Docket Number	96790P442		
ENCLOSURES (check all that apply)						
Fee Transmittal	Form	Drawing(s))	After Allowance Communication to Group		
Fee Attac	hed	Licensing-r	elated Papers	Appeal Communication to Board of Appeals and Interferences		
Amendment / Re	esponse	Petition		Appeal Communication to Group (Appeal Notice, Brief, Reply Brief)		
After Fina Affidavits	ıl /declaration(s)	Petition to C Provisional	Convert a Application	Proprietary Information		
Extension of Tim	ne Request	Power of A Change of	ttorney, Revocation Correspondence Address	Status Letter		
-		Terminal D	Disclaimer	Other Enclosure(s) (please identify below):		
Information Disclosure Statement Request for		Refund	Request for Priority; return postcard			
DTO/SB/0	08	CD, Number	er of CD(s)			
Certified Copy of Document(s)	f Priority					
Response to Mis Incomplete Appli	ssing Parts/ ication	Remarks				
Basic	Filing Fee	Remarks				
Decla	aration/POA					
Response Parts und 1.52 or 1.5	e to Missing er 37 CFR 53					
SIGNATURE OF APPLICANT, ATTORNEY, OR AGENT						
Firm Eric S. Hyman, Reg. No. 30,139						
<i>or</i> Individual name	or					
Signature	/ /3/					
Date Ulkolor						
CERTIFICATE OF MAILING/TRANSMISSION						
I hereby certify that this correspondence is being deposited with the United States Postal Service on the date shown below with sufficient postage as first class mail in an envelope addressed to: Commissioner for Patents, P.O. Box 1450, Alexandria, VA 22313-1450.						
Typed or printed name Melissa Stead						
Signature Moles Steel Date //-//-05						

/	<u></u>	1 F	E	\
B	Nov	ı ̈ ₇	2005	PP4C
回				u

ADEMINE EE TO A NICHMITTAI			Complete i	f Known				
TEE TRANSMITTAL for FY 2005 Patent fees are subject to annual revision.		Application Number	er 10/	666,482				
		Filing Date		otember 18,	2003			
		First Named Inver	tor Ko	ji Yamada	_ ·			
Applicar	nt claims sm	nall entity sta	tus. See	37 CFR 1.27.	Examiner Name			
TOTAL A	MOUNT O	F PAYMEN	Т	(\$)	Art Unit Attorney Docket N	o. 967	90P442	
METHO	OF PAY	MENT (c	heck all	that apply)				
Check [Credit c	ard \square M	oney O	rder 🛮 None 🔲 (Other (please iden	tify):		
_	_		•		Deposit Account	• •	Sokoloff, Ta	ylor & Zafman I
☐ Ch X Ch	arge fee(s) arge any a) indicated Idditional f	below ee(s) or	count, the Director is by underpayment of fee(Charge	to: (check all that fee(s) indicated b ny overpayments	elow, except	for the filing fee
EE CALCU	LATION							
Lorgo E	adib.	Small	Entitu					
Large E		Small Fee						
Fee Code	Fee	1		Fee Descripti	on			Fee Pa
	(\$)	Code	• •		a a			
1051	130	2051		Surcharge - late	_			
1052	50	2052		Surcharge - late	•	filing fee or o	cover she	et.
2053	130	2053	130	Non-English specification				
1251	120	2251	60	Extension for re	eply within fire	st month		
1252	450	2252	225	Extension for re	eply within se	cond month		
1253	1,020	2253	510	Extension for re	eply within thi	rd month		
1254	1,590	2254	795	Extension for re	Extension for reply within fourth month			
1255	2,160	2255		Extension for reply within fifth month				
1401	500	2401		Notice of Appe	· -			·-
1402	500	2402	250		Filing a brief in support of an appeal			
1403	1,000	2403	500	Request for oral hearing				
1451	1,510	2451		Troquest for star floating				
1460	130	2460		Petition to institute a public use proceeding				
1807	50	1807		Petitions to the Commissioner				
1806	180	1806		Processing fee under 37 CFR 1.17(q)				
				Submission of Information Disclosure Stmt				
1809	790	1809		Filing a submission after final rejection (37 CFR § 1.129(a))				
1810	790	2810	395	For each addition	al invention to	be examined	(37 CFR § 1.1	129(b))
Other f	ee (spe	cify) _	_					
					,	SUB	TOTAL (2)	(\$)
SUBMITTE	D BY						Comp	olete (if applicable)
				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	Registration No.			

Based on PTO/SB/17 (12-04) as modified by Blakely, Solokoff, Taylor & Zafman (vir.) 12/19/2004. SEND TO: Commissioner for Patents, P.O. Box 1450, Alexandria, VA 22313-1450



DOCKET NO.: 96790P442

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re the Application of:

KOJI YAMADA, ET AL.

Application No.: 10/666,482

Filed: September 18, 2003

Optical Module and Manufacturing For:

Method Therefor

Examiner:

Art Group:

Commissioner for Patents P.O, Box 1450 Alexandria, VA 22313-1450

REQUEST FOR PRIORITY

Applicant respectfully requests a convention priority for the above-captioned application, namely:

COUNTRY	NUMBER	DATE OF FILING
Japan	2002-275216	20 September 2002
Japan	2002-290775	3 October 2002
Japan	2002-293457	7 October 2002
Japan	2002-302960	17 October 2002
Japan	2002-336135	20 November 2002

A certified copy of the document is being submitted herewith.

Respectfully submitted,

Blakely, Sokoloff, Taylor & Zafman LLP

Dated:

Eric S. Hyman, Reg. No. 30,139

Los Angeles, CA 90025 Telephone: (310) 207-3800

12400 Wilshire Boulevard, 7th Floor I hereby certify that this correspondence is being deposited with the United States Postal Service on the date shown below with sufficient postage as first class mail in an envelope addressed to: Commissioner for Patents, P.O. Box 1450, Alexandria, VA 22313-1450.

Melissa Stead

Date

国特許庁 10,666,482 JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 Date of Application:

2002年 9月20日

願 番 Application Number:

特願2002-275216

[ST. 10/C]:

[JP2002-275216]

pplicant(s):

日本電信電話株式会社

CERTIFIED COPY OF PRIORITY DOCUMENT

BEST AVAILABLE COPY

特許庁長官 Commissioner, Japan Patent Office 2003年 8月27日





【書類名】

特許願

【整理番号】

NTTH145991

【提出日】

平成14年 9月20日

【あて先】

特許庁長官殿

【国際特許分類】

H01L 21/00

【発明者】

【住所又は居所】

東京都千代田区大手町二丁目3番1号 日本電信電話株

式会社内

【氏名】

荘司 哲史

【発明者】

【住所又は居所】

東京都千代田区大手町二丁目3番1号 日本電信電話株

式会社内

【氏名】

森田 博文

【発明者】

【住所又は居所】

東京都千代田区大手町二丁目3番1号 日本電信電話株

式会社内

【氏名】

高橋 淳一

【発明者】

【住所又は居所】

東京都千代田区大手町二丁目3番1号 日本電信電話株

式会社内

【氏名】

土澤 泰

【発明者】

【住所又は居所】

東京都千代田区大手町二丁目3番1号 日本電信電話株

式会社内

【氏名】

内山 真吾

【発明者】

【住所又は居所】

東京都千代田区大手町二丁目3番1号 日本電信電話株

式会社内

【氏名】

渡辺 俊文

【発明者】

【住所又は居所】 東京都千代田区大手町二丁目3番1号 日本電信電話株

式会社内

【氏名】 為近 恵美

【発明者】

【住所又は居所】 東京都千代田区大手町二丁目3番1号 日本電信電話株

式会社内

【氏名】 山田 浩治

【特許出願人】

【識別番号】 000004226

【氏名又は名称】 日本電信電話株式会社

【代理人】

【識別番号】 100064621

【弁理士】

【氏名又は名称】 山川 政樹

【電話番号】 03-3580-0961

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 006194

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0205287

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 光モジュール及び製造方法

【特許請求の範囲】

【請求項1】 基板上に形成されたアンダークラッドとこのアンダークラッド上に形成されたシリコンからなる第1のコアとを備えた第1の光導波路と、

前記アンダークラッド上に前記第1のコアの端部と一体に連結して形成され、 先端に向かって漸次断面積が小さくなるシリコンからなるテーパ部と、

前記アンダークラッドとこのアンダークラッド上に前記テーパ部を覆うように 形成された第2のコアとを備えた、前記第1の光導波路よりモードフィールド径 が大きい第2の光導波路とを有し、

前記第1のコア及びテーパ部がシリコン酸化膜で覆われていることを特徴とする光モジュール。

【請求項2】 基板上に形成されたアンダークラッドとこのアンダークラッド上に形成されたシリコンからなる第1のコアとを備えた第1の光導波路と、前記アンダークラッドとこのアンダークラッド上に形成された第2のコアとを備えた、前記第1の光導波路よりモードフィールド径が大きい第2の光導波路とを有し、前記第1の光導波路と前記第2の光導波路とを光学的に接続する光モジュールの製造方法であって、

前記アンダークラッドの上に、前記第1のコアの端部と一体に連結し前記第2 の光導波路側に向かって漸次断面積が小さくなるシリコンからなるテーパ部を形成する工程と、

前記第1のコア及びテーパ部を酸化する工程と、

前記酸化したテーパ部を覆うように前記第2のコアを形成する工程とを有する ことを特徴とする光モジュールの製造方法。

【請求項3】 請求項2記載の光モジュールの製造方法において、

前記第1のコア及びテーパ部を酸化する工程に熱酸化工程を用いることを特徴 とする光モジュールの製造方法。

【請求項4】 請求項2記載の光モジュールの製造方法において、

前記第1のコア及びテーパ部を酸化する工程により酸化するシリコンの厚さは

、酸化前の前記テーパ部の先端幅寸法の半分以上であることを特徴とする光モジュールの製造方法。

【請求項5】 請求項2記載の光モジュールの製造方法において、

前記第1のコア及びテーパ部を酸化する工程は、前記第1のコア及びテーパ部の側面だけを酸化することを特徴とする光モジュールの製造方法。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】

本発明は、オプトエレクトロニクス分野、光通信分野において使用される光導 波路型フィルターなどの平面光波回路において、SOI基板上に構築されるシリ コン細線光導波路に係り、特にシリコン細線光導波路よりモードフィールド径が 大きい光導波路とシリコン細線光導波路とを光学的に接続するスポットサイズ変 換構造を備えた光モジュールとその製造方法に関するものである。

[0002]

【従来の技術】

光回路の小型化を目指して、SOI(Silicon On Insulator)基板を利用したシリコン細線光導波路やフォトニック結晶導波路の研究開発が行われている。これらの光導波路と光ファイバとの接続で問題となるのが、それぞれのモードフィールド径であり、光導波路ではモードフィールド径がサブミクロンのオーダーとなる。したがって、光導波路とモードフィールド径の大きい通常の光ファイバとを効率的に直接接続することは困難であり、低損失な接続を行うためには、スポットサイズの変換が必要である。

[0003]

このため、各種のスポットサイズ変換構造が試みられてきた。その一例として、シリコン細線光導波路を形成したSOI基板上に石英系もしくはポリマーからなる接続用導波路を設け、この接続用導波路と先端をテーパ状に加工したシリコン細線光導波路とをオーバーラップさせることで、効率の高いモードフィールド径変換を実現することができる(例えば、非特許文献1参照)。

[0004]

図9 (a) はスポットサイズ変換構造を備えた従来の光導波路の平面図、図9 (b) は図9 (a) の光導波路の断面図である。図9において、10はシリコン細線光導波路、11はスポットサイズ変換構造、12は接続導波路、13はシリコン基板、14は石英よりなるアンダークラッド、15はポリマーよりなるオーバークラッド、16はシリコンよりなるコア、17はシリコンよりなるテーパ部、18はポリマーよりなるコアである。シリコン細線光導波路10と接続導波路12は、シリコン基板13とアンダークラッド14を共通基板として形成され、スポットサイズ変換構造11を介して光学的に接続されている。

[0005]

光通信に最も良く使用されている 1. 55μ m帯の光を通す場合、シリコン細線光導波路 100 のコア 16 は断面が厚さ 0.2μ m、幅 0.4μ mである。接続導波路 120 コア 18 は、アンダークラッド 14 及びオーバークラッド 150 のいずれよりも数%程度大きな屈折率を持ち、断面の厚さと幅は共に数 μ m程度である。シリコンテーパ部 17 は、長さが 200μ m、テーパ先端部の幅が 0.06μ mである。シリコン細線光導波路 10、スポットサイズ変換構造 11 及び接続導波路 12 に共通のオーバークラッド 15 は、アンダークラッド 14 と同じ 11 を程度の屈折率を持つ。シリコンコア 16 及びシリコンテーパ部 17 は、電子線リソグラフィとエッチングで形成され、ポリマーコア 18 は、光リソグラフィで形成される。

. [0006]

【非特許文献1】

荘司他,「SOI基板上に形成したSi細線光導波路の外部結合構造」,春季 講演会予稿集,社団法人応用物理学会,2001年,No.3,30a-YK-11

[0007]

【発明が解決しようとする課題】

図9に示した光導波路において、スポットサイズ変換効率を高めるためには、 シリコンテーパ部17の先端部の幅を0.1μm以下、理想的には0.06μm 程度以下に小さくすることが求められる。しかしながら、このような微細加工は 、電子線ビーム描画等の極めて高度なリソグラフィ技術やエッチング技術を要するため、経済的に加工することが難しいという問題点があった。

本発明は、上記状況に鑑みてなされたものであり、スポットサイズ変換構造の 微細なテーパ部を経済的に加工することができる光モジュール (スポットサイズ 変換構造付き光導波路) を提供することにある。

[0008]

【課題を解決するための手段】

本発明の光モジュールは、基板上に形成されたアンダークラッドとこのアンダークラッド上に形成されたシリコンからなる第1のコアとを備えた第1の光導波路と、前記アンダークラッド上に前記第1のコアの端部と一体に連結して形成され、先端に向かって漸次断面積が小さくなるシリコンからなるテーパ部と、前記アンダークラッドとこのアンダークラッド上に前記テーパ部を覆うように形成された第2のコアとを備えた、前記第1の光導波路よりモードフィールド径が大きい第2の光導波路とを有し、前記第1のコア及びテーパ部がシリコン酸化膜で覆われたものである。

アンダークラッドは、第1のコア及び第2のコアよりも屈折率が小さい材料、 例えば石英からなる。第2のコアは、アンダークラッドよりも屈折率が大きい材料、例えばポリマーからなる。第1のコアは、第2のコアよりも屈折率が大きい シリコンからなる。

[0009]

また、本発明は、基板上に形成されたアンダークラッドとこのアンダークラッド上に形成されたシリコンからなる第1のコアとを備えた第1の光導波路と、前記アンダークラッドとこのアンダークラッド上に形成された第2のコアとを備えた、前記第1の光導波路よりモードフィールド径が大きい第2の光導波路とを有し、前記第1の光導波路と前記第2の光導波路とを光学的に接続する光モジュールの製造方法であって、前記アンダークラッドの上に、前記第1のコアの端部と一体に連結し前記第2の光導波路側に向かって漸次断面積が小さくなるシリコンからなるテーパ部を形成する工程と、前記第1のコア及びテーパ部を酸化する工程と、前記酸化したテーパ部を覆うように前記第2のコアを形成する工程とを有

するものである。

また、本発明の光モジュールの製造方法の1構成例は、前記第1のコア及びテーパ部を酸化する工程に熱酸化工程を用いるようにしたものである。

また、本発明の光モジュールの製造方法の1構成例において、前記第1のコア 及びテーパ部を酸化する工程により酸化するシリコンの厚さは、酸化前の前記テーパ部の先端幅寸法の半分以上である。

また、本発明の光モジュールの製造方法の1構成例において、前記第1のコア 及びテーパ部を酸化する工程は、前記第1のコア及びテーパ部の側面だけを酸化 するようにしたものである。

$[0\ 0\ 1\ 0]$

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態について、図面を用いて説明する。なお図中の各構成要素の大きさ、形状及び配置関係は本発明が理解できる程度に概略的に示してあるに過ぎず、また、以下に説明する数値的条件は一つの例に過ぎない。

$[0\ 0\ 1\ 1]$

[第1の実施の形態]

図1(a)は本発明の第1の実施の形態となる光モジュール(スポットサイズ変換構造を備えた光導波路)の平面図、図1(b)は図1(a)の光モジュールのAーA線断面図、図1(c)は図1(a)の光モジュールのBーB線断面図である。

$[0\ 0\ 1\ 2]$

図1において、20はシリコン細線光導波路、21はスポットサイズ変換構造、22は接続導波路、23はシリコン基板、24は石英からなるアンダークラッド、25はポリマーからなるオーバークラッド、26はシリコン細線光導波路20のコア、27はコア26の端部に、コア26の断面高さ(厚さ)を維持した状態で幅寸法が先端に向かって細くなるように形成されたシリコンテーパ部、28はポリマーからなる、スポットサイズ変換構造21及び接続導波路22のコア、30はシリコン酸化膜である。

[0013]

シリコンテーパ部27は、その表面に形成されたシリコン酸化膜30とともに、コア28の端面からコア28内に挿入された状態で、コア28により覆われている。導波路の軸線に沿ってシリコンテーパ部27とコア28がシリコン酸化膜30を介して接する区間がスポットサイズ変換構造21となり、ここでは、シリコン酸化膜30を介してシリコンテーパ部27とコア28とが光学的に結合する状態となっている。シリコンテーパ部27とコア28との位置関係は、軸線同士が一致していることが望ましいが、コア28の幅内にシリコンテーパ部27が収まる程度の状態であれば良く、厳密な整合性を必要とするものではない。

[0014]

次に、本実施の形態の光モジュールにおける光の伝搬状態を説明する。図1 (a)、図1 (b)に示したシリコン細線光導波路コア26の左端面から入射した光は、コア26を伝搬しシリコンテーパ部27の左端位置に到達する。光がシリコンテーパ部27を図1 (a)の右方向に伝搬するにつれて、コア幅が徐々に狭まり光の閉じこめが弱くなりモードフィールドが周囲に広がろうとする。ところが、このときアンダークラッド24より屈折率の高いコア28が隣接して存在するため、光パワーの分布はシリコン細線光導波路コア26からコア28へ徐々に移っていく。

[0015]

前記とは逆に図1(a)、図1(b)に示したコア28の右端部から光が入射した場合には、右から左へ光が進行するにつれてコア28、シリコンテーパ部27を介して、シリコン細線光導波路コア26へ光の分布が移動する。このように、シリコンテーパ部27を介してシリコン細線光導波路コア26と接続導波路コア28とを接続することで、効率の高いモードフィールド径変換を実現することができる。

[0016]

次に、本実施の形態の光モジュールの製造方法を図2、図3を用いて説明する。まず、シリコン基板23と、シリコン基板23上に形成されたアンダークラッド24と、アンダークラッド24上に形成された上層シリコン層31とからなるSOI基板の上層シリコン層31上に、エッチング加工用ハードマスクとなるシ

[0017]

続いて、シリコン酸化膜32の上面に電子線用のレジストを塗布した後、このレジストを電子線リソグラフィにより加工して、シリコン酸化膜パターン形成用のレジストマスク33を形成する(図2(b))。レジストマスク33はシリコン酸化膜32を加工してエッチング加工用ハードマスクを形成するためのものであり、このハードマスクを用いて上層シリコン層31を加工してシリコン細線光導波路コア26及びシリコンテーパ部27を形成するのであるから、形成後のシリコン細線光導波路コア26及びシリコンテーパ部27の平面形状は、レジストマスク33と同一である。

[0018]

ただし、シリコン細線光導波路コア26及びシリコンテーパ部27の形成後に、後述する酸化工程によってシリコンの幅を減少させるので、図4に示すように酸化後の最終作製目標値に対して、酸化で減少する量だけシリコン細線光導波路コア26及びシリコンテーパ部27の幅(すなわち、レジストマスク33の幅)を大きく設定しておく必要がある。

[0019]

例えば、シリコン細線光導波路コア26の幅の最終作製目標値を $0.3\mu m$ 、シリコンテーパ部27の先端部の幅の最終作製目標値を $0.06\mu m$ 、酸化により減少するシリコンの厚さを $0.05\mu m$ とすると、酸化前のシリコン細線光導波路コア26の幅が $0.4\mu m$ 、酸化前のシリコンテーパ部27の先端部の幅が $0.16\mu m$ となるように、レジストマスク33を形成する。シリコンテーパ部27の先端部は、図4に示すように台形状に形成しておく。

[0020]

なお、幅方向と同様に、シリコン細線光導波路コア26及びシリコンテーパ部27の厚さも酸化によって減少するので、酸化で減少する量だけ上層シリコン層31を予め厚くしておく必要がある。例えば、シリコン細線光導波路コア26及

びシリコンテーパ部 2 7 の厚さの最終作製目標値を 0.3 μ mとすれば、上層シリコン層 3 1 の厚さを 0.3 5 μ mにしておけばよい。

[0021]

次に、レジストマスク33を用いてシリコン酸化膜32をエッチングして、シリコン細線光導波路コア26及びシリコンテーパ部27をエッチングするためのハードマスク29を形成した後、レジストマスク33をアッシングにより除去する(図2(c))。そして、ハードマスク29を用いて上層シリコン層31をエッチングして、シリコン細線光導波路コア26及びシリコンテーパ部27を形成し(図2(d))、ウエットエッチングによりハードマスク29を除去する(図2(e))。

[0022]

次に、シリコン細線光導波路コア26及びシリコンテーパ部27を形成したSOI基板全体を酸素雰囲気中900度で加熱して、シリコン細線光導波路コア26及びシリコンテーパ部27を酸化させ、シリコン酸化膜30を形成する(図2(f))。このとき、シリコンは酸化されてシリコン酸化膜30に変化するので、シリコン細線光導波路コア26及びシリコンテーパ部27の幅と厚さは酸化時間と共に減少する。図4に示したように、シリコンテーパ部27がシリコン細線光導波路コア26から先端に向かって漸次細くなるように酸化前の形をテーパ状に形成しておけば、酸化後の形もテーパ状となる。

[0023]

続いて、シリコン細線光導波路コア26、シリコンテーパ部27及びシリコン酸化膜30を形成したSOI基板上に、アンダークラッド24より屈折率が2%程度高いポリマー系材料を化学気相成長法あるいはスピンコーティング法などにより3.0μm程度堆積する。そして、このポリマー系材料を光露光法とエッチングにより加工して、スポットサイズ変換構造21及び接続導波路22のコア28を形成する(図3(a))。

[0024]

最後に、シリコン細線光導波路コア26、シリコンテーパ部27、シリコン酸化膜30及びコア28を形成したSOI基板上に、アンダークラッド24と同じ

屈折率を持つ石英系あるいはポリマー系材料を 5.0 μ m以上堆積して、オーバークラッド 25 を形成する(図 3 (b))。こうして、図 1 の光モジュールが完成する。

[0025]

以上のように、本実施の形態によれば、シリコンテーパ部 2 7 を酸化させて細くするので、酸化量とシリコンテーパ部 2 7 の先端部の初期幅の設定により、先端部の初期幅が 0 . 1 μ m以上の場合でも、先端部の幅を最終的に 0 . 0 6 μ m以下にすることができる。したがって、本実施の形態の方法によれば、リソグラフィの解像限界を超えて 0 . 1 μ m以下の解像度のパターン形成をすることが可能である。さらに、シリコン酸化膜 3 0 がシリコンテーパ部 2 7 の両側に固着して存在するため、コア 2 7 の先端部においてシリコンの幅がいかほど狭くなっても、コア 2 7 が倒れることを防止することができる。

[0026]

なお、本実施の形態では、シリコンテーパ部 27の先端部の幅を 0.06μ m 程度にしているが、図 5に示すように、酸化前のテーパ先端部の幅を L、酸化により減少させるシリコンの厚さを Dとしたとき、D \geq L / 2 、すなわち酸化により減少させるシリコンの厚さ D を酸化前のテーパ先端部の幅 L 0 半分と等しいかそれよりも大きな量とすることにより、原理的に最も変換効率が高くなるテーパ先端部幅 0μ mのシリコンテーパ部 27 を実現することが可能である。

[0027]

[第2の実施の形態]

図 6 (a)は本発明の第 2 の実施の形態となる光モジュールの平面図、図 6 (b)は図 6 (a)の光モジュールのA - A 線断面図、図 6 (c)は図 6 (a)の光モジュールのB - B 線断面図であり、図 1 と同様の構成には同一の符号を付してある。

[0028]

以下、本実施の形態の光モジュールの製造方法を図7、図8を用いて説明する。まず、図7(a)~図7(d)までの工程は、第1の実施の形態の図2(a)~図2(d)までの工程と全く同じである。次に、第1の実施の形態では、シリ

コン細線光導波路コア26及びシリコンテーパ部27を形成した後、この際にエッチングに用いたハードマスク29をウエットエッチングにより除去しているが、本実施の形態では、ハードマスク29を残したまま、第1の実施の形態と同様の酸化工程を行う。これにより、シリコン細線光導波路コア26及びシリコンテーパ部27は、上面が酸化せずに側面のみが酸化し、シリコン細線光導波路コア26及びシリコンテーパ部27の側面にシリコン酸化膜30が形成される(図7(e))。

[0029]

図7 (f)、図8 (a)の工程は、それぞれ図3 (a)、図3 (b)の工程と同様である。以上のように、本実施の形態では、ハードマスク29を残し、シリコン細線光導波路コア26及びシリコンテーパ部27の側面のみを酸化することで、形状制御を容易にすることができる。

なお、第1、第2の実施の形態では、シリコンテーパ部27とコア28とがシリコン酸化膜30を介して接しているが、通信に使用される光の波長(例えば1.55μm)に対してシリコン酸化膜30は十分に薄いため、シリコン細線光導波路コア26とコア28との光学的接続にシリコン酸化膜30が影響を与えることはない。

[0030]

【発明の効果】

本発明によれば、第1の光導波路の第1のコアとこの第1のコアの端部に一体に連結したテーパ部を酸化するようにしたので、テーパ部の先端幅寸法が0.06μm程度以下のシリコンコアを、0.1μm以下の解像度を持たないリソグラフィプロセスを用いて、精度良く経済的に加工することができる。

[0031]

また、酸化により減少するシリコンの厚さを、酸化前のテーパ部の先端幅寸法の半分以上とすることにより、原理的に最も変換効率が高くなる先端幅寸法 0 μ mのテーパ部を実現することができる。

[0032]

また、第1のコア及びテーパ部の側面だけを酸化することにより、酸化により

減少するシリコンの厚さと酸化前のテーパ部の幅寸法のみを考慮して酸化を行え ばよいので、形状制御を容易にすることができる。

【図面の簡単な説明】

- 【図1】 本発明の第1の実施の形態となる光モジュールの平面図及び断面図である。
- 【図2】 本発明の第1の実施の形態の光モジュールの製造方法を示す工程 断面図である。
- 【図3】 本発明の第1の実施の形態の光モジュールの製造方法を示す工程 断面図である。
- 【図4】 酸化前及び酸化後のシリコン細線光導波路コアとシリコンテーパ 部の1例を示す平面図である。
- 【図5】 酸化前及び酸化後のシリコン細線光導波路コアとシリコンテーパ 部の他の例を示す平面図である。
- 【図6】 本発明の第2の実施の形態となる光モジュールの平面図及び断面図である。
- 【図7】 本発明の第2の実施の形態の光モジュールの製造方法を示す工程 断面図である。
- 【図8】 本発明の第2の実施の形態の光モジュールの製造方法を示す工程断面図である。
- 【図9】 スポットサイズ変換構造を備えた従来の光導波路の平面図及び断面図である。

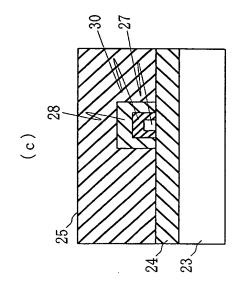
【符号の説明】

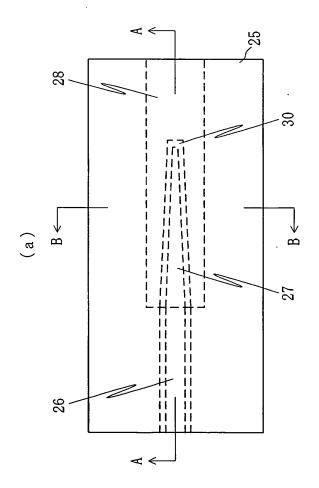
20…シリコン細線光導波路、21…スポットサイズ変換構造、22…接続導波路、23…シリコン基板、24…アンダークラッド、25…オーバークラッド、26…シリコン細線光導波路コア、27…シリコンテーパ部、28…スポットサイズ変換構造及び接続導波路のコア、29…ハードマスク、30…シリコン酸化膜。

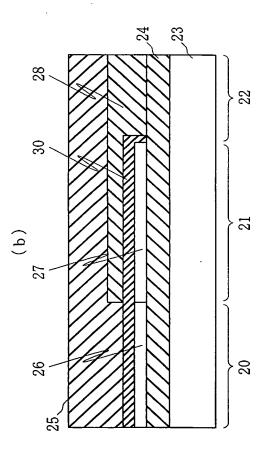
【書類名】

図面

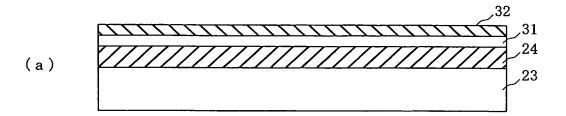
【図1】

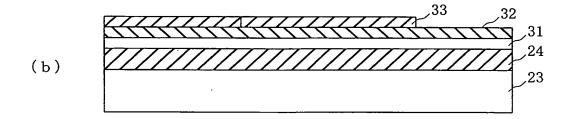


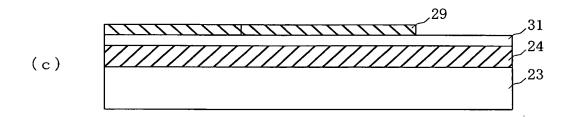


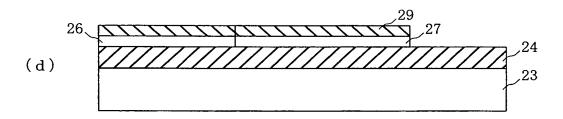


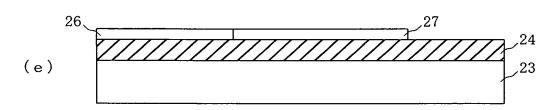
【図2】

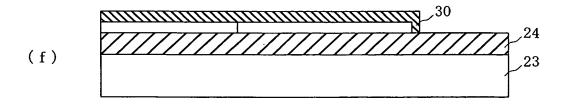




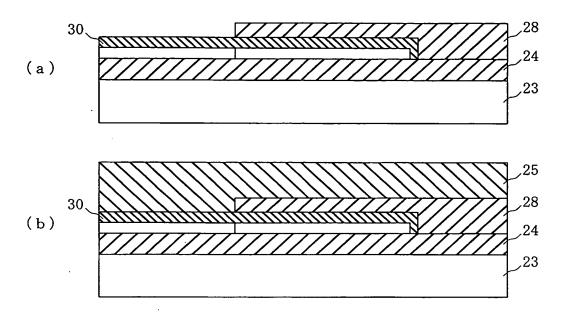




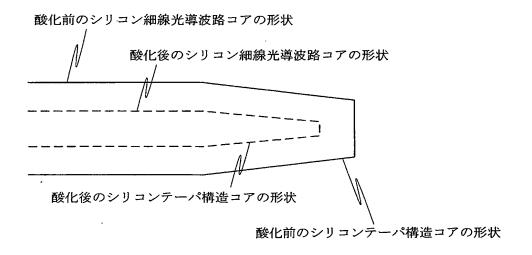




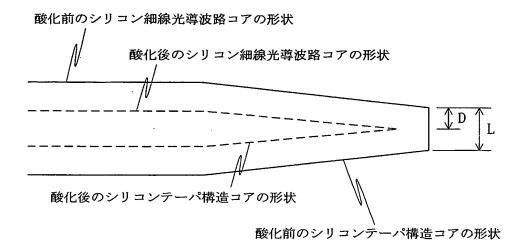
【図3】



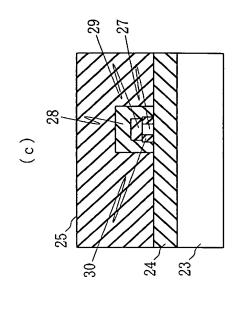
【図4】

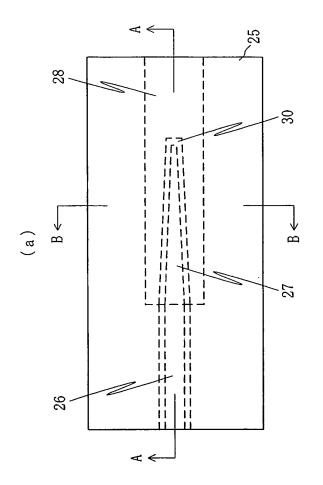


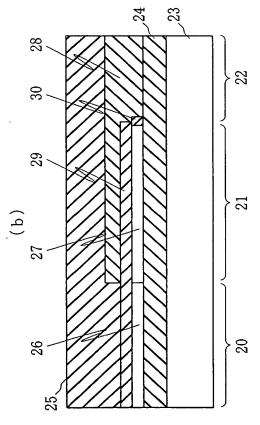
【図5】



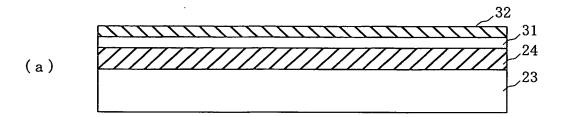
【図6】

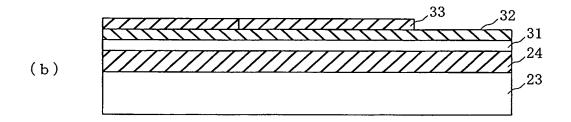


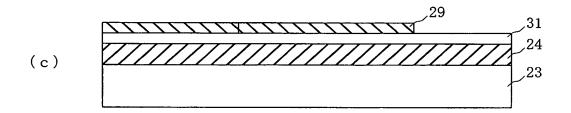


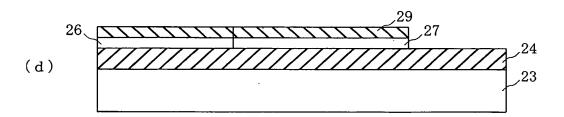


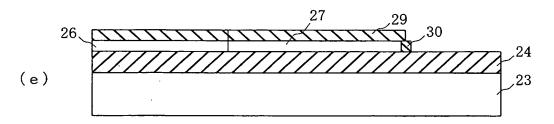
【図7】

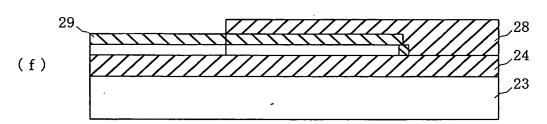




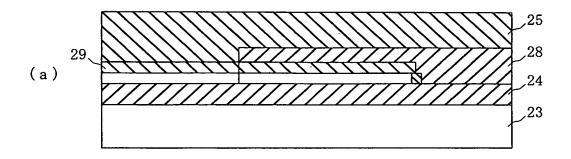




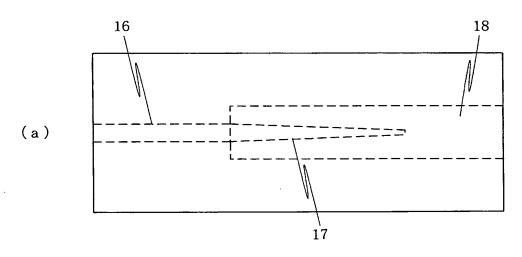


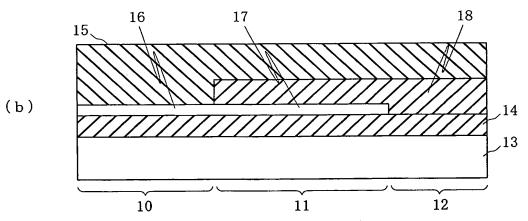


【図8】



【図9】





【書類名】

要約書

【要約】

【課題】 スポットサイズ変換構造の微細なテーパ部を経済的に加工する。

【解決手段】 光モジュールは、シリコン基板23上に形成されたアンダークラッド24とシリコンからなる第1のコア26を備えた第1の光導波路と、アンダークラッド24と第2のコア28を備えた、第1の光導波路よりモードフィールド径が大きい第2の光導波路とを有し、第1の光導波路と第2の光導波路を光学的に接続する。アンダークラッド24の上に、第1のコア26の端部と一体に連結し先端に向かって漸次断面積が小さくなるシリコンからなるテーパ部27を形成し、第1のコア26及びテーパ部27を酸化し、酸化したテーパ部27を覆うように第2のコア28を形成する。

【選択図】

図 1

特願2002-275216

出願人履歴情報

識別番号

[000004226]

1. 変更年月日

1999年 7月15日

[変更理由]

住所変更

住 所

東京都千代田区大手町二丁目3番1号

氏 名

日本電信電話株式会社